

情報連絡員報告総括表（令和5年10月分）

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況							
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化					
製 造 業	食料品	1	3			4		1	3		1	3		2	2			4		1	3			4		1	3						
	繊維工業	1	1	1		3		2	1		1	2			3			3			3		1	1	1		2	1					
	木材・木製品			1		1				1			1			1		1				1		1				1					
	紙・紙加工品			2			2		1	1		1	1			2		1	1			2		2				2					
	印刷		1			1			1			1			1			1			1			1			1						
	化学・ゴム																																
	窯業・土石製品		2	1		3		1	2			3			2	1		3			3			3			2	1					
	鉄鋼・金属	1				1			1			1			1			1			1			1			1						
	一般機器	1	2		1	2		2	1			3			3			3		1	2			3			3						
	電気機器			1			1				1					1			1				1		1			1					
	輸送機器			1	1			1			1			1			1					1			1			1					
その他																																	
	小計	4	9	7	2	15	3	7	10	3	3	15	2	3	12	5	1	17	2	2	13	5	1	17	2	1	12	7					
非 製 造 業	卸売業		2			2		1	1			2			1	1		2		X				2			1	1					
	小売業	1	4	1		5	1	4	2			5	1		4	2		4	2							6			1	3	2		
	商店街	1			1			1				1			1			1										1					
	サービス業		4		X			1	3			4			3	1		3	1								4			3	1		
	建設業		2	2						3	1		2	2		2	2		3				1						4			2	2
	運輸業	1									1			1			1						1						1			1	
	その他		1	1					2			2			2			2									2			2			
	小計	3	13	4	1	7	1	7	12	1		17	3	2	12	6	1	15	4				19	1	3	11	6						
	合計	7	22	11	3	22	4	14	22	4	3	32	5	5	24	11	2	32	6	2	13	5	1	36	3	4	23	13					

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和4年10月～令和5年10月)

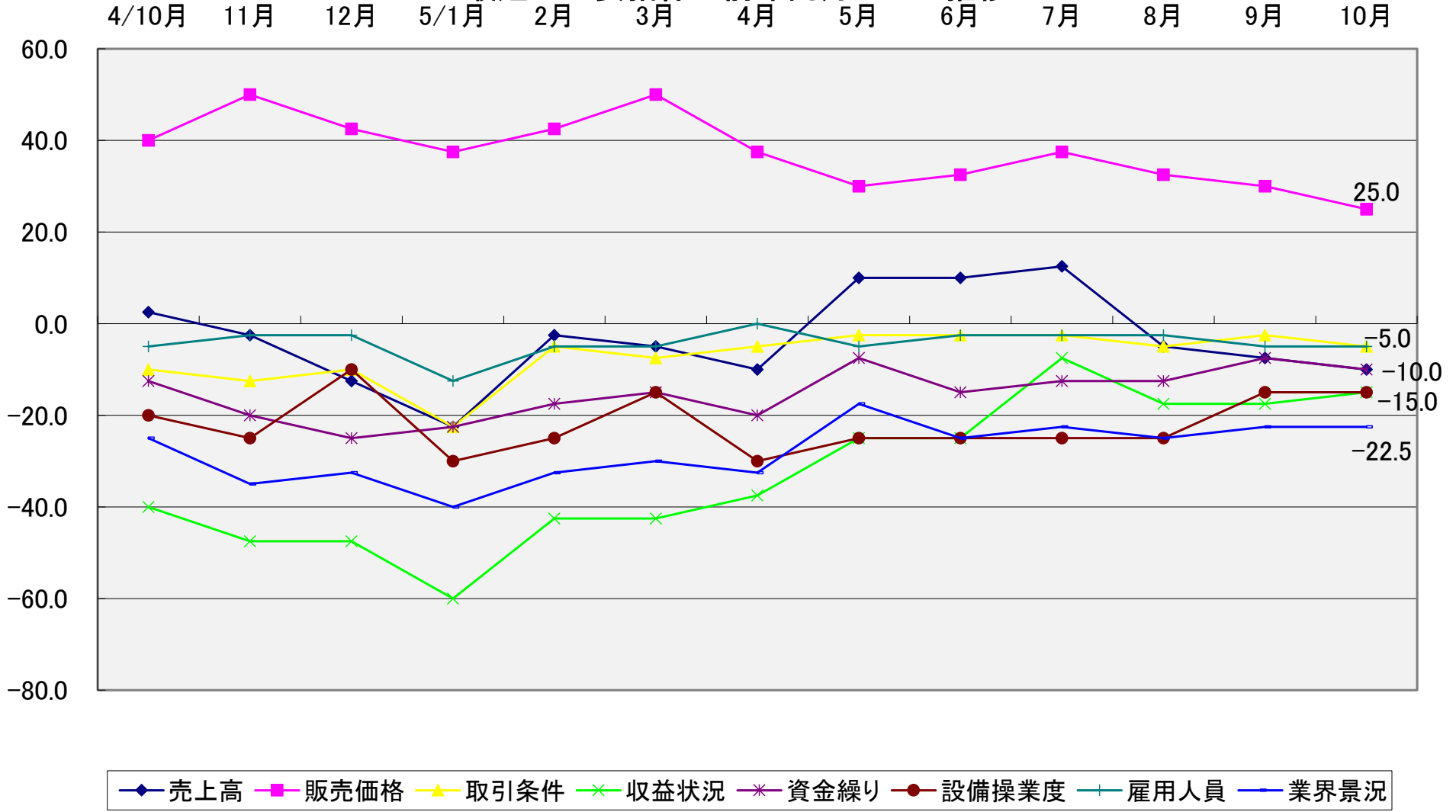
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	4/10月	11月	12月	5/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	増減
売上高	2.5	-2.5	-12.5	-22.5	-2.5	-5.0	-10.0	10.0	10.0	12.5	-5.0	-7.5	-10.0	-2.5
販売価格	40.0	50.0	42.5	37.5	42.5	50.0	37.5	30.0	32.5	37.5	32.5	30.0	25.0	-5.0
取引条件	-10.0	-12.5	-10.0	-22.5	-5.0	-7.5	-5.0	-2.5	-2.5	-2.5	-5.0	-2.5	-5.0	-2.5
収益状況	-40.0	-47.5	-47.5	-60.0	-42.5	-42.5	-37.5	-25.0	-25.0	-7.5	-17.5	-17.5	-15.0	2.5
資金繰り	-12.5	-20.0	-25.0	-22.5	-17.5	-15.0	-20.0	-7.5	-15.0	-12.5	-12.5	-7.5	-10.0	-2.5
設備操業度	-20.0	-25.0	-10.0	-30.0	-25.0	-15.0	-30.0	-25.0	-25.0	-25.0	-25.0	-15.0	-15.0	0.0
雇用人員	-5.0	-2.5	-2.5	-12.5	-5.0	-5.0	0.0	-5.0	-2.5	-2.5	-2.5	-5.0	-5.0	0.0
業界景況	-25.0	-35.0	-32.5	-40.0	-32.5	-30.0	-32.5	-17.5	-25.0	-22.5	-25.0	-22.5	-22.5	0.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする
企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



報告者名
報告年月

三重県中小企業団体中央会
令和5年10月

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製 造 業	食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足が続いている。販売状況においても、コロナウイルス規制の緩和により、旅行者の増加等となって、お土産物の需要がかなり回復してきており、コロナ前の状況に戻ってきている。一方で、ウクライナ戦争の影響及び円安による諸資材の高騰により、製造コストに影響が出ており、特に電気代が約50%値上がりしているが、その分を価格に上乗せする訳にもいかず、経営を圧迫している。
		醤油味噌	涼しくなってきた、本格的な仕込みのシーズンとなってきた。原材料等の購入が増えてきた。ただ、末端の購入は食料品の相次ぐ値上げであまりよくない。単価はアップしているが数量減が現れてきている。原発処理水の影響で中国への輸出に影響が出ている事業者がいる。原料相場は値下がりをはじめているが円安が値決めに影響を及ぼしている。大豆は中東情勢を受けた原油の再上昇からバイオエネルギーへの需要が増え価格高騰にならないか不安である。国産米は酷暑影響で2等米比率が増えているが、農家への支払い概算金が増えていることで価格は上がっている。□
		他に分類されない食料品 製造業	デジタル化、業務効率化といわれる中、当組合でも遅ればせながらネットバンキングの利用、給与支払のデジタル化等をやっとなできるようになった。市においても長年の要望でもあった給食センターの設置が決まり、中学給食の始まりも期待される。どのように運営されるのか、どのような業者が参加するのか、当組合への影響について、調べて対処しなくてはならない。
		製麺	三重県も各地区でイベントが開催されてきている。地区の文化祭も4年ぶりに開催されるようになった。一方、組合員の廃業が2業者あり、業界は厳しい状況が続いている。特に物価上昇に伴う価格改定が出来ていない事で苦しい状況の方々がいる。この現状を変えていかないと苦しい状況になる。伊勢うどんは活発に動き出している。今後が楽しみである。
	繊維工業	衣料縫製	ガソリン、電気、ミシン部品、糸等、全ての物の値段が上がり経営を悪化させている。人件費の上昇も工場としてはきつい状況である。加工先が少し工賃を上げて頂いたので助かっている。
	木材・木製品	木材	円安、燃料費、輸送費の高騰が依然として経営に影響している。
	紙・紙加工品	木材チップ	原材料価格が高止まりしているため原料確保が課題である。
		古紙	10月の仕入量：段ボール約91±5%、新聞、チラシ約88±6%、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約92±3%と思う。寒暖の差が激しく夏日が続くこの頃で冬物の売れ行きや下火になったお歳暮等の消費が心配される。今では古紙問屋の古紙集荷量の55~70%弱を占めるような段ボール古紙の販売価格が1円値下げされ10月からの最低賃金による支払い増加や運賃、電力、食費等の支払いに悪い影響を受けるのは明らかで古紙の発生が毎月激減し、今のところ段ボール等の板紙製造の主原料集荷のための将来の担い手に不安と実質的な給与賞与原資のマイナスをされた事は非常に残念であるが、製品原紙の販売量や販売価格等や輸出原紙の価格低迷等の理由があるのだろう。飲食店等はコロナ前のような売上や入店客数や粗利には戻らないし、退職となった従業員は帰って来ることはなく経営は大変難しいと考える。10年ほど前には125~130円の対ドル為替水準であったと思うが、20円以上円安になって史上空前の収益を上げる零細企業もあるようだが、為替変動以下の原料価格で全てを賄う国内中心経営の会社には恩恵は少なく、あきらめと発想の転換が改めて必要なのかと思う。年末に向けて賞与の支払いや事故や火事等の心配もあり、ゴミ等の置き去りや古紙や古着の持ち去りの行為も変わらずに多発するであろう。
	印刷	印刷	月始めにおいて、組合事業である三重県民手帳の販売事業が始まった。新聞、NHK、三重テレビ等に取り上げられたことで広く周知できたことはよかった。この時期は各事業者の予算計上で見積依頼が増える時期であり、2021年より数回の資材費の値上げが新聞報道で取り上げられてきたが、見積価格に対する値上げの根拠を求められる事が増えた。10月期において9月期との比較では、売上増、また前年同月と比較しても売上増となっており、コロナ禍からの回復はみられる。
	窯業・土石製品	伊賀焼	少しずつ注文など販売も増加してきている様に感じる。原料問題(ペタライト等)にも頭を悩ませている方もいる。 ペタライトとは伊賀焼や萬古焼土鍋等、耐熱陶器の原材料で、リチウムを含んだ鉱物である。需要が拡大していることもあり、萬古焼の主要原料のペタライトは調達困難で不足している。
鉄鋼・金属	鍍金	業界の生産額は、前月と比べ若干増加した。EV関連の車載部品の受注がやや好調になってきている。ただ、総じて横ばいの動きが大勢である。	

報告者名
報告年月

三重県中小企業団体中央会
令和5年10月

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
	一般機器	四日市市	各企業により濃淡があるが需要、業績は停滞気味である。これまでの半導体不足や紛争の影響の他に急激な円安、あらゆる物価の上昇も響いている。販売価格が上昇できて経費の転嫁のみで人件費上昇分を反映させるのが難しいことと、給与アップでも人が集められない影響もみられる。2024年には景気が上向く予想であるので工業製品の需要増、設備投資につながっていくことを期待したいが、現時点で状況は変わっていない模様である。
		津市	自動車関連は先月に引き続き受注は高いが、住宅関連は低調となった。昨年と比べると105%増であるが、昨年は半導体不足による生産調整があった事による。ただし、中国や欧州の方で受注が減り、11月は少し落ちるとの情報が入っている。某ばね工場の火災の影響は今の所ないが、今までの状況からみると2~3ヶ月遅れて影響がでているので注視したいところである。
		伊勢市	相変わらず景況感は良くなく、特に製造業は低調だが、今後業績が好転する業種も少しずつではあるが増加傾向にあると予想される。来年度、設備投資計画がある企業も増えてきているので徐々に回復傾向にあると思われる。
	電気機器	鳥羽市	業績は好転せず、30~40%ダウンの状況が続いている。産業機器関連の内容も非常に悪く回復傾向が見られない。
	輸送機器	伊勢市	昨年比にて、価格転嫁による売上増加分は見られるが、物量減少による売上減少は顕著である。利益面は昨年比から改善あるものの、価格転嫁によるところが大きく、好業績によるものとは言えない。
非 製 造 業	小売業	青果	野菜前半：全国的な夏場の高温、北日本の雨天や気温低下の影響で全体的に少なく、ほうれん草、小松菜、ブロッコリー、トマトが特に高値になっている。一方で、ナス、玉葱、じゃがいもの価格は安定している。 野菜後半：全体的に入荷は少ないが、長野産の白菜が秋の出荷のピークを迎え価格も落ち着いている。高値が続いた長野産キャベツ、群馬産のきゅうりは値を下げている。また、大根、トマトも高値が続いた反動と入荷量が増え値下げした。11月中旬になると野菜の価格は値下げする予想である。 果物前半：リンゴの味を楽しめる季節がやってきた。青森産の「早生ふじ」、長野産「秋映」、「シナノスイート」、「シナノゴールド」等、多様な品種の味を楽しんで食べ比べれば、「シャインマスカット」も終盤になってますます人気でやや値上がりしている。 果物後半：「早生ふじ」、「シナノスイート」等リンゴの入荷が減り、県内産、愛知産の次郎柿の入荷が増え、価格は平年並み。県内産、熊本産のみかんの荷動きが活発になっている。本年度はやや不作のようである。
		自転車	10月はスポーツの秋、自転車のロードレース大会「全国ジュニア自転車競技大会」が県内で開催される等、活気が見られ自転車活用が多くなる季節となった。中旬以降に東海財務局が発表した経済情勢報告は「一部に弱さがみられるものの回復している」と表現した。しかし、自転車購入買い換え等の個人消費においては、買い控えの状況がなお続いている。点検整備TSマーク付帯保険の整備店における委託手数料とインボイスについての事務処理方法の通達を行い、10月11日に組合員に対し、電動キックボード、EVバイクの取扱い研修会も開催したところ、安全面が確認され、大変勉強になったとの声が多く聞かれ、今後に期待するところである。
		電器	夏商戦も落ち着き、エアコン工事等はひと段落したところで、秋のシーズンに入り商品の動きは比較的穏やかな感じである。人の動きが活発で旅行やショッピングなどを楽しむ人が多く感じる分、家の中の事に関心が弱く家電品の動きは少なかったと思う。詐欺防犯対策機能付きの電話機や4K放送のチャンネル再編成など話題はあるが、売上に繋がっていくのはこれからなのでしっかり準備していかなければならない時期である。
		石油	政府が近くまとめる新たな経済対策の原案が明らかになった。物価高騰対策の柱として、ガソリン価格を抑えるための補助金や電気・ガス料金の負担軽減を2024年4月末まで延長するとして、今後政府、与党内で調整が進められることとなった。明らかになった原案では、今回の経済対策について日本経済を成長軌道に乗せる「国民への還元」を両輪と位置つけた上で、物価対策や持続的な賃上げなどに「あらゆる政策手段を総動員する」としている。このうち物価高騰対策としては、年末まで行うガソリン価格を抑えるための補助金や電気・ガス料金の負担軽減を来年4月末まで延長するとしている。しかし、いつかは補助金もなくなり、この先の出口が見えない中、SS業界としてはガソリン販売に対して大きな不安を感じる。
		スポーツ	先月も報告したが、野球熱、ラグビー熱、サッカー熱、陸上熱と各種目の大会で日本中がわきかえっている。組合員にとって、これ以上ない良好な環境におかれている。この好機を上手に乗り切り、ビジネスを進めて行くよう皆で話し合っている。
	商店街	熊野市	昨年まで中止・延期されていた秋のイベントも次々と開催され活気がみられる。またスポーツ集客事業も活発に開催されており、市内の宿泊事業者や観光関連事業者も売上増に繋がっていると感じる。ただ各業界とも価格の上昇と雇用が追いついていない状況で今後の課題とも考えられる。

報告者名
報告年月

三重県中小企業団体中央会
令和5年10月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
サービス業	旅館	秋のシーズンに入って10月、11月は年間で見ると夏休みに次ぐ繁忙期であるが、まだまだ平日の稼働が低調であった。11月の予約状況も芳しくないので早く需要喚起策を出してもらって、稼げる時に稼がないと年明けの1月後半より2月にかけてのオフシーズンを乗り切ることが大変である。対前年比110～120%、2019年同月比は70～80%程度であった。
	警備	毎年の事ながら、受注は多くあるが警備員が不足の為、やむをえず受注調整をしている現状である。
建設業	総合工事業	令和5年4月から9月までの県内建設企業の受注高は、前年度とほぼ同規模であった。しかしながら、国発注工事については、対前年度比1割の減となっており、国発注工事の減少は続いている。
	内装工事業	10月は対前年同月比で見ると少しの増加となったが、実際は10月から値上げをした分が含まれるため、対前年同月比は減少と思われる。インボイスも含め、業界の厳しい状況は続くと思念される。
	水道工事業（亀山市）	まだまだ資材等の納期や価格の上昇があり、不安定な状況が続いている。しかし、工事の受注については引き合いは切れずあり、仕事としては忙しい。
運輸業	トラック	軽油価格は政府の燃料油価格激変緩和措置の延長対策により、先月に比べ約10円安くなったが、依然高止まり傾向にあって運賃への転嫁が進まないことから、経営を圧迫する大きな要因となっている。電子、デバイス部門は先月から若干持ち直し傾向にあることから関連する輸送も若干ではあるが、増加傾向にある。自動車部門はトヨタ自動車、ホンダ技研とも大きく生産台数が増えていることから関連する輸送も大きく伸びている。スーパー小売部門についても引き続き伸びており、関連する輸送も引き続き増加傾向にある。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	他に分類されない食料品 製造業	組合設立当時の方々が亡くなり、出資金はどのようにすればいいのか、組合解散まで放っておいてよいのか、返金を求められれば現在の価値はどのように求めるのか、組合解散となる場合、敷地の更地化の費用はどうするのか心配になる。
食料品	製麺	11月27日の週に試食等も含め、会合を考えている。今後とも宜しく願い申し上げます。
繊維工業	衣料縫製	技能実習制度の変更について具体的な情報が早く欲しい。
一般機器	四日市市	工業製品の需要の停滞は2023年内は続く見込み、2024年に回復傾向となったとしても、物価の上昇や人手不足が問題になるはず。きめ細やかな支援をお願いしたい。
サービス業	旅館	7月度の全国宿泊者の速報が届きましたが、コロナ前比で伸ばしている県（14都道府県）もあれば、三重県を含めた12県は2桁マイナスとなっている。先月も要望しているが、早く需要喚起策を検討してもらいたい。